本研究のフェーズは、□基礎 □基礎~臨床 ■臨床 です

干渉波を用いた末梢神経知覚測定機器の開発



講師 藤原 敦子 ① 共同研究・産学連携への意気込み

カテーテル挿入などの侵襲なしに体表面から、膀胱神経特異的な微小電流を標的化して通電し、膀胱知覚機能を診断できる新しい医療機器の開発を行います。過活動膀胱の本態である、膀胱知覚過敏を、知覚閾値の定量的な数値で判定できる医療機器です。

② 想定される連携先・移転先

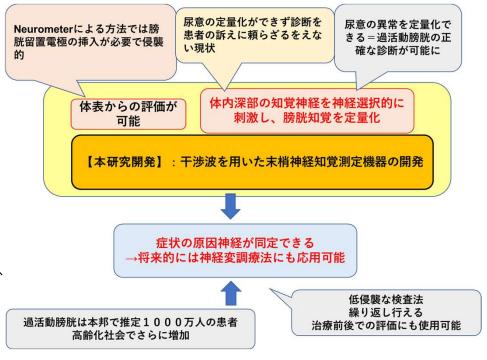
共同研究企業とともに、医療機器の開発とその実用化(非臨床試験、臨床試験)の実施を目指します。

キーワード

過活動膀胱 尿意 末梢神経知覚測定、機器開発

研究内容

- 過活動膀胱を代表とした膀胱の 知覚の異常をきたす疾患は頻度 が高いが、膀胱知覚あるいは尿 意の異常を定量化する方法がな いため、現状では尿意の異常の 有無は患者の主観的な申告に頼 らざるを得ません。
- 我々は、世界に先駆け、 Neurometer®を用いて末梢神経 線維選択的な膀胱知覚の評価を 行ってきました。本研究では、 課題であった、カテーテル挿入 など侵襲的な処置を必要とせず、 体表の電極から、神経線維選択 的に膀胱知覚機能を定量的に測 定する装置の開発を行います。





問合せ先 TEL: 075-情報・研究支援課 E-mail: kika

TEL: 075-251-5168 FAX: 075-251-5275

E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp